

2017年

携帯サイトへGo!→
携帯で教室便りが見られます



教室だより 4月号

進学・進級おめでとうございます

入学式といえば、桜咲く4月が定番ですが、昔からそうだったわけではありません。江戸時代、子どもたちの学びの場所となっていた寺子屋、藩校、私塾などは、入学時期はとくに決まっておらず、いつでも入学できたそうです。

その後、日本に西洋化をもたらした明治維新により、西洋にならって高等教育では9月入学が主流になりました。しかし、富国強兵政策の影響もあって、政府の会計年度が4月～3月になり、それに合わせるかのように小学校の4月入学が奨励され、明治33年に小学校が、大正8年に旧制高校が、そして大正10年には帝国大学が正式に4月入学となりました。

現在、日本は4月入学で定着していますが、これは日本独自のものです、世界の多くの国々は9月から新学期が始まっているため、海外から優れた学生や研究者を日本の大学に迎え入れることが困難になっています。

今後ますます大学の国際化を進める上で、ひいては大学の教育や研究水準の向上を目指す上で、日本の4月入学制度が大きな壁になっているといえるかもしれません。

グローバル化が進んでいく中で、日本も9月入学が一般的になるかもしれませんね。

公文式本市場教室 火・木 3～7時 TEL 186-61-4936(上平方)

横割教室 月・水 3～7時 TEL 61-8891(福島方)

指導者：新妻ゆき子 携帯090-2260-0671

Eメール:yvonne-yukiko@mbi.nifty.com

携帯アドレス:yvonne-1682-yukiko@docomo.ne.jp

ゆきこくもん

検索

ホームページ <http://www.yukiko-kumon.com>

公文式の創始者・公文 公（くもん とおる）先生の言葉より

“学習意欲を起こさせるには、やさしいところをたくさんさせて「できる」喜びをもたせることです”

公文式では多くの場合、学校では前に習ったところ、本人もわかっているはずのところから学習を始めます。今の学年よりかなり低いところからスタートすることによって、たとえ学校では低い点数を取っている子どもでも、公文式の学習を始めてしばらくは100点ばかり取れます。その体験を通じて「やれば、できる」ということが実感でき、今まで嫌いだった勉強もおもしろくなり意欲と自信がわいてきます。意欲や自信とともに、このスラスラできるやさしい段階で、集中して学習し続ける力を養うという目的もあります。

そのようにしてまずはより早く学年相当に追いつき、やがて学年を越えた学習をすることによって本物の学力を養っていくのが公文式の特長のひとつです。

2017年 4月の学習日

日	月	火	水	木	金	土
						1
2	△3	4	△5	6	7	8
9	△10	11	△12	13	14	15
16	△17	18	△19	20	21	22
23	△24	25	△26	27	28	29
30						昭和の日



本市場教室日□
横割教室日△

ゆき子の一言コラム

～お子さんの成績アップのために～

小学生低学年のうちに学習習慣と考える力をつける

小学生低学年

学習習慣と考える力をつける時期となります。決まった時間集中して学習できるようにしておくことが重要です。この時期は学習の理解も大切ですが、それ以上に学習習慣、学習の姿勢を作ることを重要視する必要があります。正しい姿勢で机の前に座れることも大切です。

学習項目も少なく遊びと勉強の区別があまりついていないこの時期に楽しい正しい学習習慣を身につけておくことが必要となります。

遊びと勉強が区別されるこの時期には勉強に集中できる姿勢をつけることが重要になり、つかずに進むと学業不振になる恐れも出ます。

学習項目が増え、学校の授業のスピードもあがってきます。

毎日の学習習慣がついていないと理解不足になってきます。

表面化されにくいので手遅れになりがちです。

算数など計算力だけでは対応できなくなります。

小学校高学年では具象思考から描象思考に変わる。

小学生高学年

学習項目が一気に増加するこの時期では考える力がついていないことが前提で学習がされます。

考える力をもとに応用のきく基礎学力をつけることが必要となります。言葉の理解度を上げなければなりません。

小学4年生

抽象的な事からの理解が必要となってくるこの時期は言葉のイメージ化ができるようになることが重要となります。しかも今までの学習内容の理解度も関係してより内容理解がむずかしくなってきます。

小学5年生

頭の中で立体的なイメージがなされる一段と高度な抽象概念の操作が要求される学習内容となります。

学習項目も多岐にわたり柔軟な思考が必要とされてきます。学習内容が分かりにくくなっていく学年です。

小学6年生

小学校の総まとめでもあり、中学校の準備期間でもある時期となります。

この学年で今まで学習したことの再理解定着を行います。小学生で学習したことは中学生になってからも学習することが多くありますので、この時期での学習は中学校の学習の基礎になり、理解にもつながります。

このようなことが起こらないための宿題（復習）の必要性。

学習の反復がされないと、学習したことが定着（頭に入らない）されません。

定着されないと、学習したことが未消化になってしまいます。この状態を繰り返すと「分からない」につながります。

「わからない」は考えることを停止させます。その対策のために公文では、復習の為の宿題を出します。

前やったこと、今日やったことを毎日の宿題で繰り返し、確実にやることで力をつけていくのです。

ですから、宿題は自らやる子はいいのですが、低学年や、やらない子は必ずやらせてください。

それが親御さんのお子さんに対しての将来のための愛情です。

ただし、答えがあっているのではなく、しっかり机に向かって集中してできるのか観察し、プリントに目を通して、答えがあっているのかではなく、ページを抜いてなく確実にやったか確認をお願いします。

あとは、公文で採点し、わからないことを見つけ学力アップを図っていきます。親御さんの前向きなご協力を是非お願いします。

お休みのときは、電話でも携帯メールでも結構ですので連絡をお願いします4月分の会費引き落としは3月28日(火)です。よろしくお願いたします。(注)休会・退会の場合は、引き落としの関係から15日までにお申し出下さい。

お迎え電話を教室からする子には必ず電話代10円を持たせてください。